

官民連携による見守りシンポジウム

ICTを活用した孤立防止と生活支援型コミュニティづくり



平成28年3月13日

岩手県立大学 社会福祉学部
小川晃子

1

1. 背景

2

1. 背景【高齢者の社会的孤立】

表1. 北東北の人口動態—全国との比較

地域	人口総数 (人)	平成12年~17年 年の人口増減 数 (人)	平成12年~ 17年の人口 増減率 (%)	高齢化率 (65歳以上 人口割合) (%)	一般世帯数 (世帯)	65歳以上の 高齢単身者 世帯の割合 (%)	高齢夫 婦世帯 の割合 (%)	総面積 (ha)	総面積 当たり 人口密度 (人/km ²)	自殺者数 (人口10万 人当たり) (人)
青森県	1,436,657	-39,071	-2.6	22.7	509,107	8.2	8.8	960,705	146.4	33.4
岩手県	1,385,041	-31,139	-2.2	24.5	479,302	7.6	9.2	1,527,881	89.3	32.2
秋田県	1,145,501	-43,778	-3.7	26.9	391,276	8.5	10.6	1,161,222	96.5	37.6
北東北	3,967,199	-113,988	-2.9	24.6	1,379,685	8.1	9.5	3,649,808	106.6	34.2
全国	127,767,994	842,151	0.7	20.1	49,062,530	7.9	9.1	37,286,654	342.7	24.4

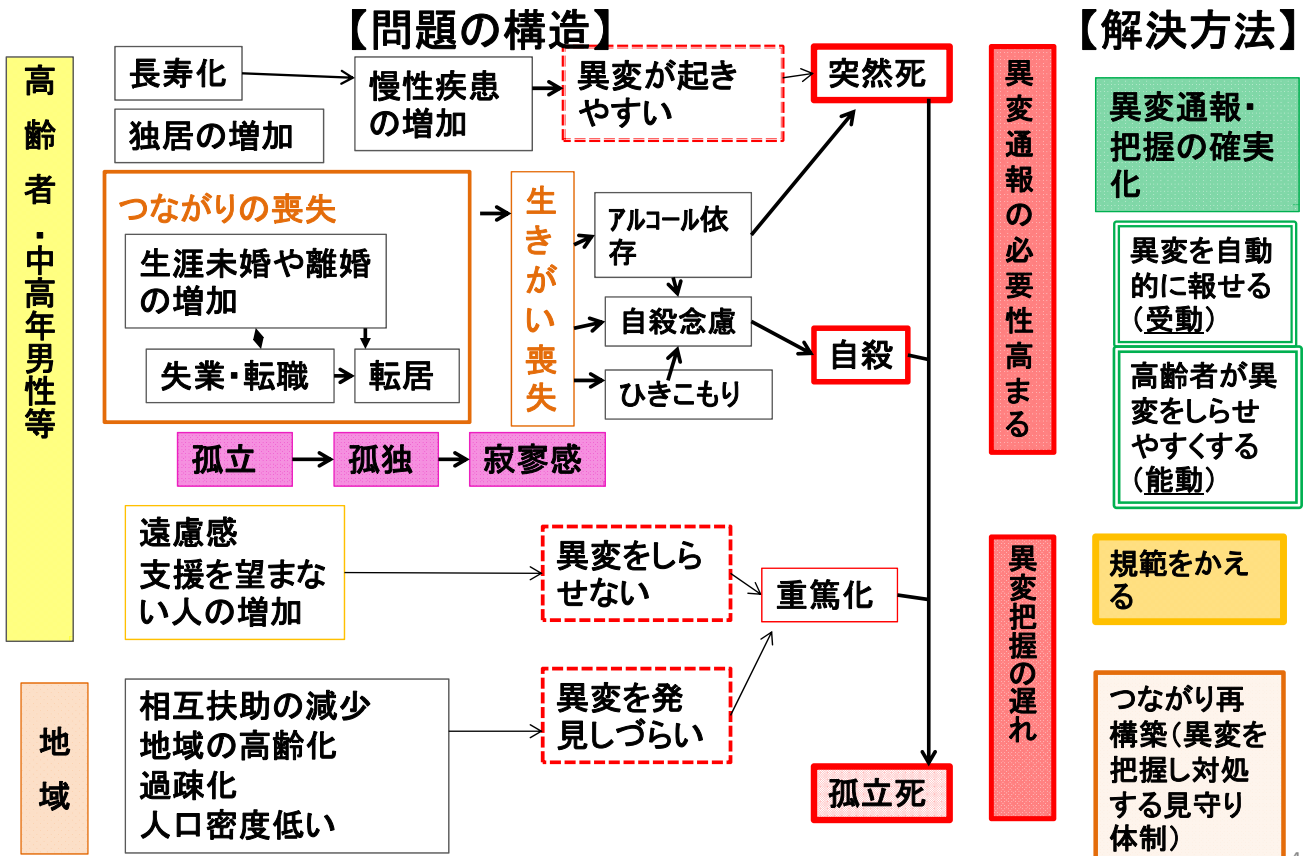
表2. 高齢者の遠慮感・支援が必要な場合に誰かにしらせるか

支援が必要な場面	しらせる	しらせな い	無回答
頭痛・腹痛が続いたり、怪我をするなど身体の具合が悪い時	52.9	47.1	-
医者から短期間の入院を勧められた時	78.3	20.3	1.4
生活費に困った時	44.9	54.3	0.7
通院や買い物のために出かけた時	32.6	64.5	2.9

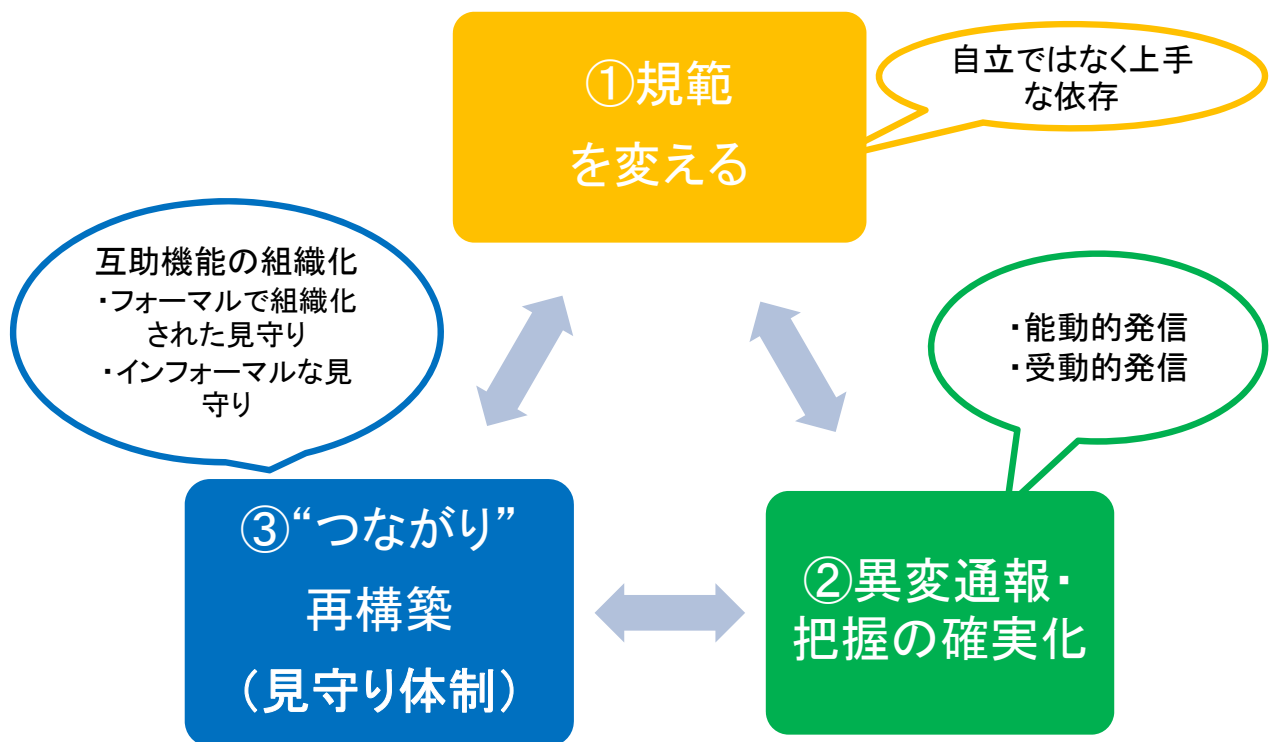
出典)人口・世帯数は「国勢調査」平成17
(2005)年、人口密度・自殺率は「人口動態調
査」H19(2007)年

注)数値は%、n=135。調査対象は岩手県川井
村の満65歳以上の独居高齢者。調査実施時期は
平成14年6月。
出典)小川晃子(編著)・岩手県立大学社会福
祉学部「福祉開発調査実習報告書」。

孤立をめぐる問題の構造と解決方法



孤立死予防(異変把握)取り組み



5

2. 「見守り」とは

6

見守りの課題

【緊急通報システムの課題】



“お守り”？！

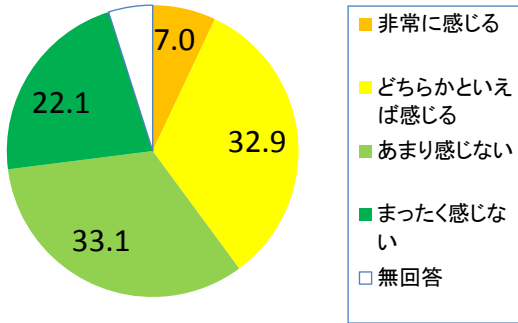


図1. 緊急ボタンを押すことへの遠慮感

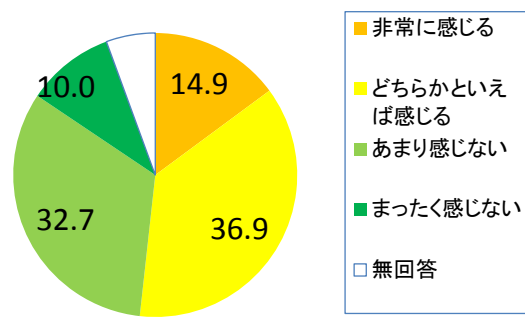


図2. 「いざという時に緊急通報システムを押せないのではないか」という不安感

出典) 小川見子他『高齢者の見守りに関する調査』岩手県社会福祉協議会、平成21年3月

注) 北東北3県の見守られている高齢者1,500人対象の調査結果 n=700: 緊急通報システム利用者

見守りの課題

【適切な距離感を保ちながら、確実な異変把握】

“見張り”？！

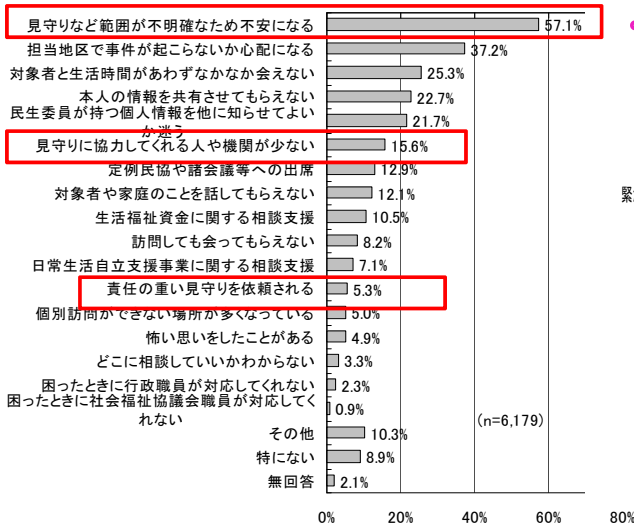


図3. 民生委員活動のなかで大変なこと

出典) 小川見子他『高齢者の見守りに関する調査』岩手県社会福祉協議会、平成21年3月

注) 北東北3県の民生委員悉皆調査結果 n = 6,179

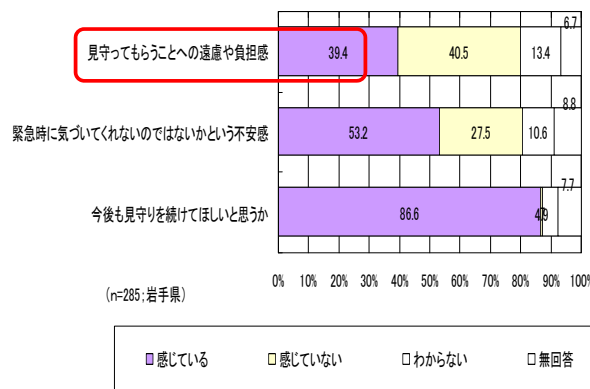


図4. 見守られる側の見守りに関する意識

出典) 小川見子他『高齢者の見守りに関する調査』岩手県社会福祉協議会、平成21年3月

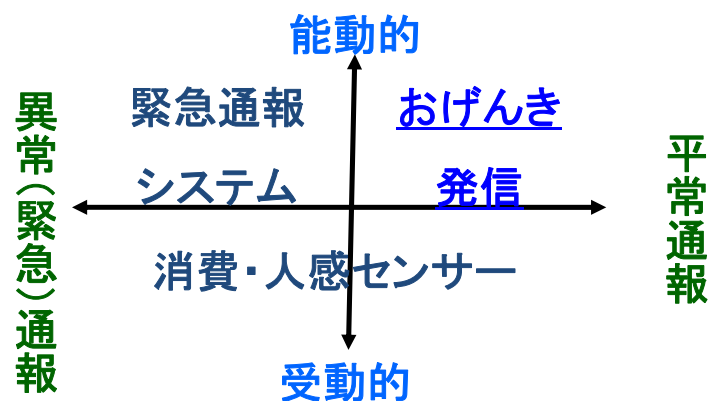
注) 岩手県における見守られている高齢者の調査結果

3. 基盤となる「おげんき発信」、「生活支援型コミュニティづくり」の取り組み

9

基盤となる「おげんき発信」の取り組み

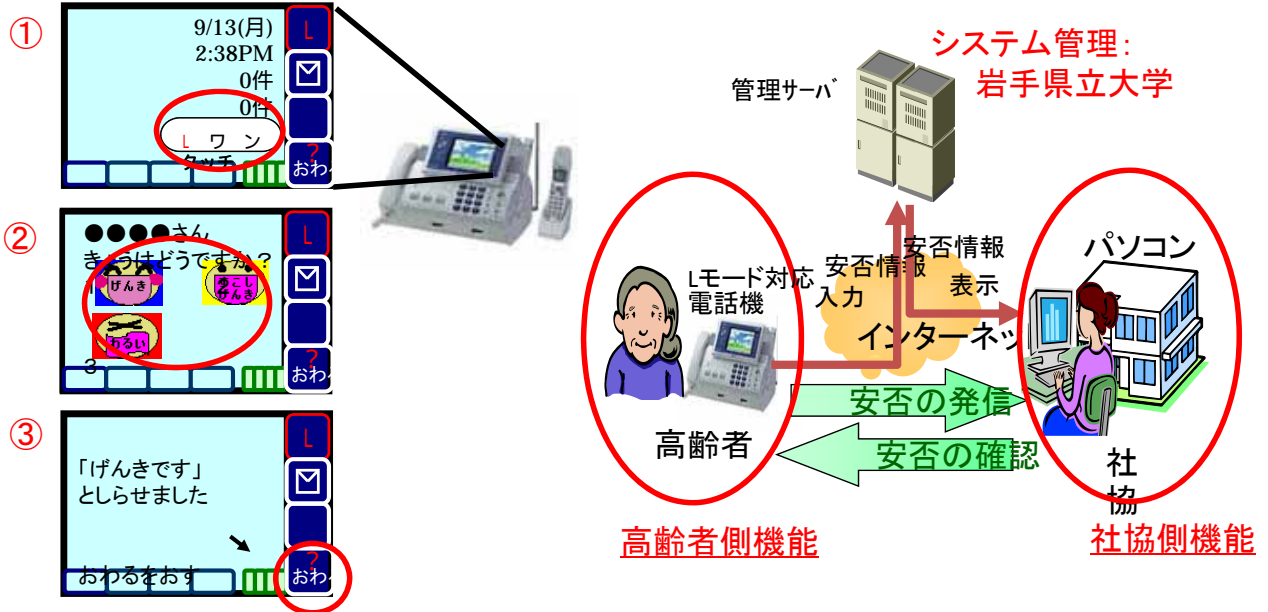
- 高齢者が能動的に「今日もげんきです！」と家庭用の電話機から発信する仕組み
- 岩手県立大学のプロジェクトが地域と連携し開発



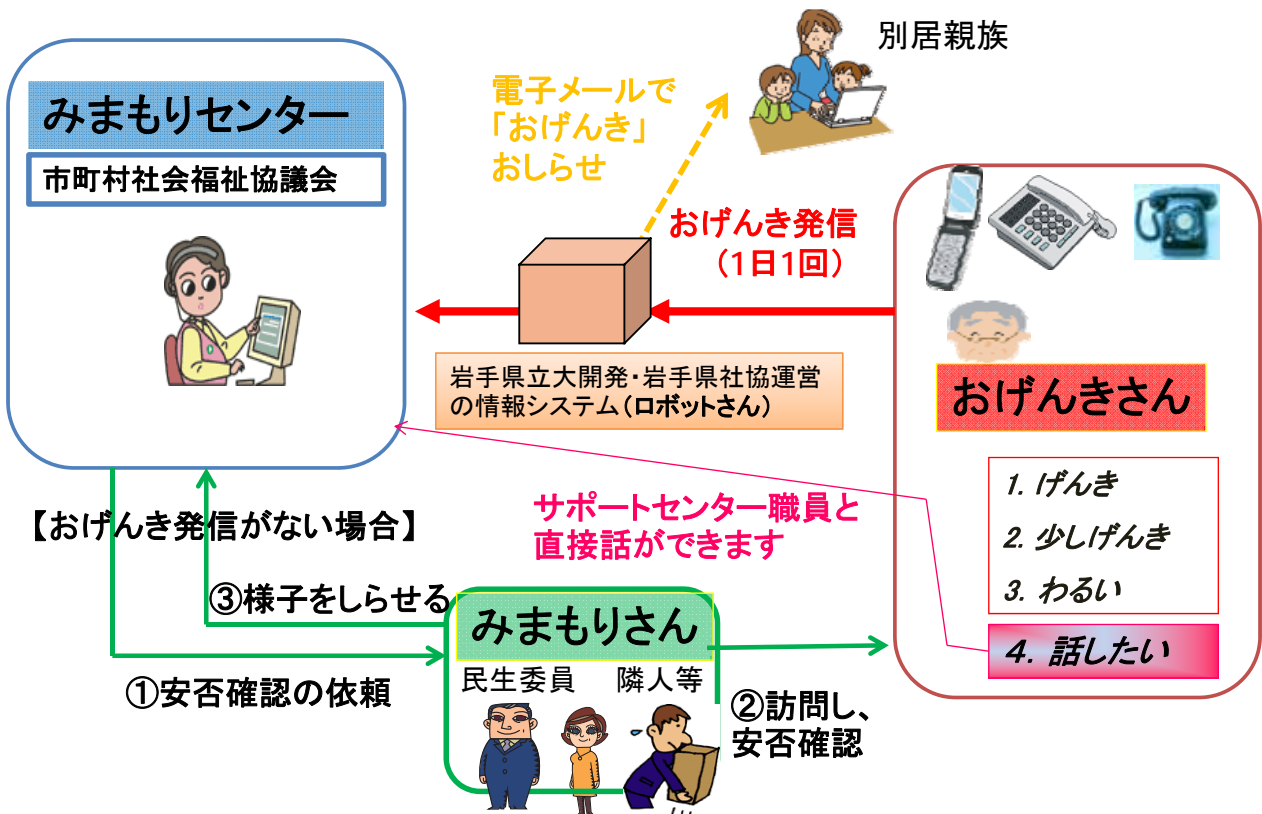
10

第1次「おげんき発信」

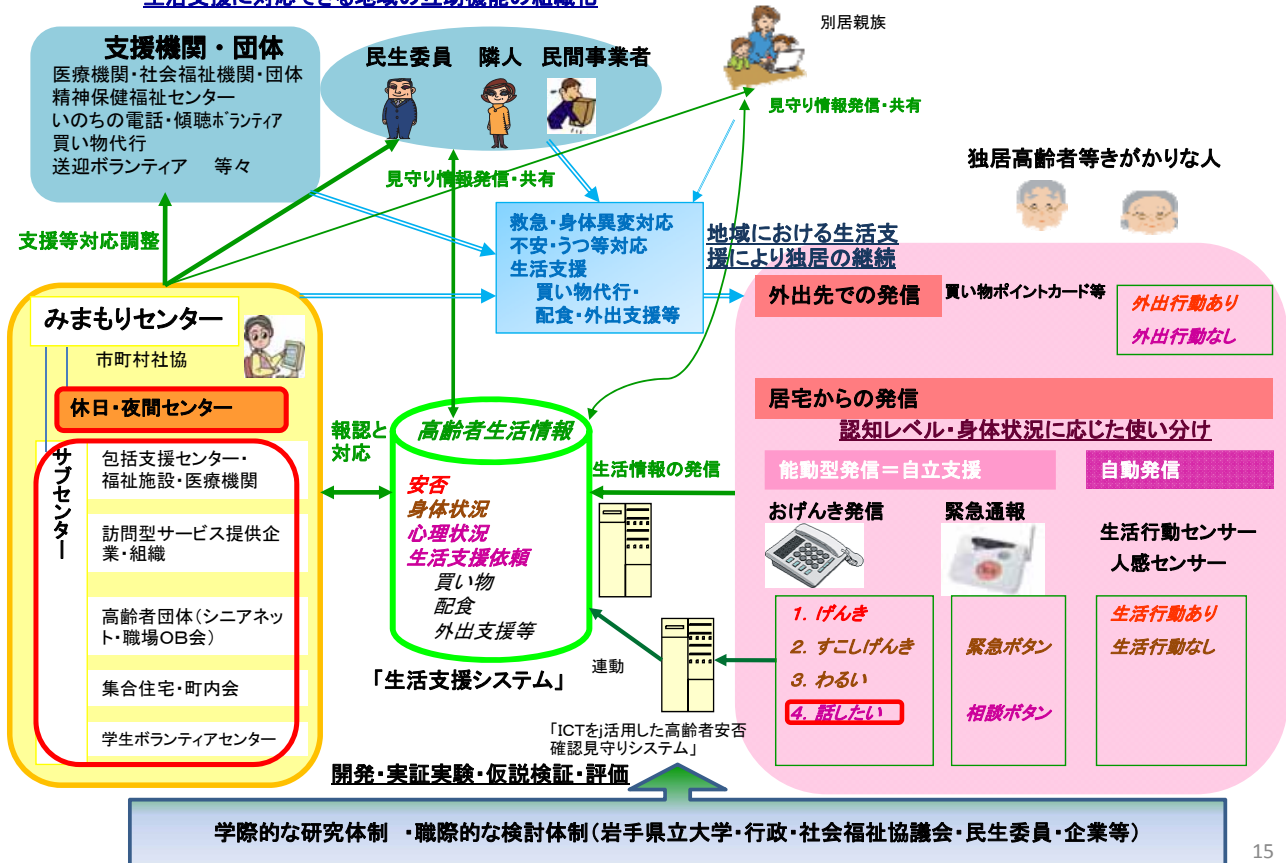
- H15.12～H21.03 岩手県川井村 独居高齢者170名のうち40名使用
- 「見張り(監視)」にならないように→高齢者が“おげんき”発信することで、過剰なみまもりを不要とし、高齢者自身の遠慮感を払拭する



第2次「おげんき発信」 いわて“おげんき”みまもりシステム



第3次 科学技術振興機構社会技術開発センター「コミュニティで創る新しい高齢社会の「デザイン」領域
「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」実証実験の概要
生活支援に対応できる地域の互助機能の組織化



②身体レベル・認知レベルに応じた安否確認(異変把握)システムの使い分け

おげんき発信・緊急通報一体型の開発と運用
滝沢地区【郊外スプロール型】



おげんき発信(ワンプッシュ型)
滝沢村社協・川前地区県立
大みまもりセンター

「緊急通報システム」
滝沢村
受託:アイネット(株)

(効果)

- ・知的障害・認知症でもワンプッシュでおげんき発信
- ・毎日の確実な安否確認が可能になる
- ・独居の限界が伸びる
- ・4者の情報共有・連携

↓
異変把握の確実性・信頼性・効率性向上

③地域の互助機能の組織化

民生委員等の地域の見守り者との情報共有・研修

全ての地区

- 民生児童委員協議会の会合で、プロジェクトの説明や進捗状況報告を行う



滝沢地区【郊外スプロール型】

川井地区【過疎化・高齢化進展地区】

- ・24年度「おげんき発信」モニター自殺（川井・滝沢）
- ・社会福祉協議会職員と事例検討
- ・みまもり側への自殺予防ゲートキーパー研修

17

③地域の互助機能の組織化

「おげんき発信」仲間の共助組織化

滝沢地区【郊外スプロール型】湯舟沢地区

健康づくりサロンーカトレア会

- 平成23年12月に民生委員の呼びかけで、湯舟沢地区に住む「おげんき発信」モニター7名と民生委員で構成
- 平成24年6月から活動量計を使いはじめ、2週間に1回測定しサロン活動
- プロジェクトの教員による健康指導など
- 買い物等の相互支援



18

③地域の互助機能の組織化

アクションリサーチによる介入

滝沢地区【郊外プロール型】川前地区

- 平成10年の開学以来、県立大と地域の交流
 - アパート経営者等が学生への支援→学生と交流→学生が雪かきなどボランティア活動
- 平成23年度 川前地区の民生委員が、おげんき発信利用促進(20件依頼)
- 平成24年8月 アクションリサーチ委員会によるフォーカスグループインタビューにより川前地区高齢者支援連絡会発足

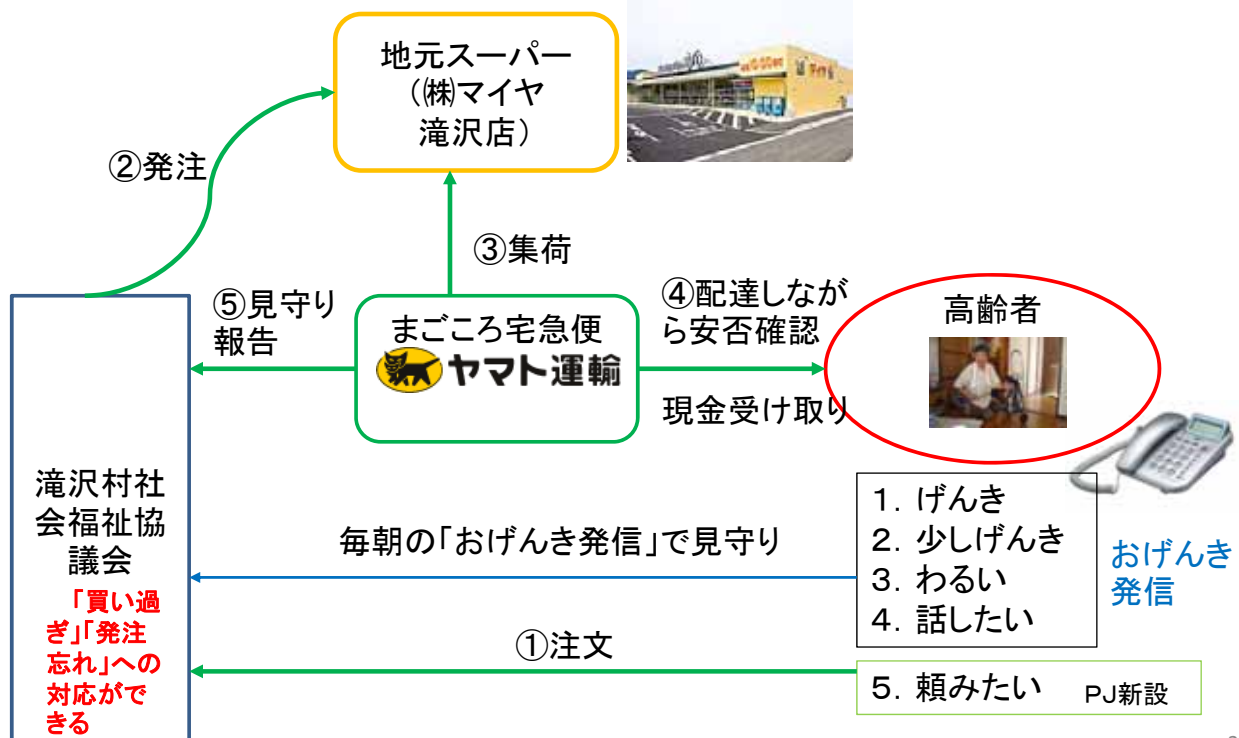
構成メンバー
 民生委員、町内会長、老人クラブ役員、滝沢駅前安心安全の会、ローソン滝沢駅前店、(有)まごのて、滝沢村社会福祉協議会、県立大 学生ボランティアセンター
 事務局:プロジェクト室



④高齢者の異変や生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける支援体制づくり

滝沢地区【郊外プロール型】

まごころ宅急便(平成25年4月～8月実証実験、その後事業化)



④高齢者の異変や生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける支援体制づくり

滝沢地区【郊外スプロール型】川前地区高齢者支援連絡会



社会問題解決への貢献

1. 高齢者の生活支援において、コミュニティを構成する人や機関のネットワークと、ICTを活用した情報ネットワークの双方を一体的に開発し、運用することの効果を実証し、モデルを構築した。
2. そのための方策として、次の有効性を明らかにした。
 - ①24時間・365日の生活支援相談窓口を整備
 - ②高齢者の心身の状態に応じた安否確認システムの使い分けと地域での情報共有
 - ③地域の互助機能の組織化
 - ④高齢者の異変や生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける生活支援体制づくり